【第1号議案】

平成２５年度事業報告

１、概要

（展示） 平成 26 年夏の記念館移転を控え、移転会議で多忙になることが想定されるため、25 年度は県外からの大規模な作品借用を避けて抑制的な展示とした。春の企画展は宮城道雄生誕 120 年記念を宮城道雄記念館と連携して開催した。期間中に宮城会主催の講演と演奏会には喜嶋奈津代主査学芸員が講師の一人として「會津八一の伝統と革新について」講演した。入館者も宮城会などの協力で増加した。夏は陶芸家・斎藤三郎の生誕 100 年と連動し「會津八一の旅と出会い」展を催し、敗戦直後の旧高田市を舞台にした八一と交流のあった文化人らを紹介し、年末の斎藤三郎展開催に刺激を与え、上越からの来館者が増加した。秋の特別展は第 3 弾「街の中の會津八一～東日本編」で、東京、長野、山形などの古美術商や博物館にある八一揮ごうの看板や書作品を紹介し、来館者から好意的な感想を多く受けたが、入館者数は低調だった。街の中がテーマとはいえ、県民市民にとって親しみのない店や旅館、博物館のため、関心が高まらなかったと総括している。冬の企画展「會津八一と酒の文化」兼第 7 回写真コンテスト入賞入選作品展は、新潟酒の陣を意識して企画、八一と縁のあった地元の酒造会社の協力も得たためか、従来、入館者が 700～900 人と三ケタ台に終始していた冬期としては久方ぶりに入館者が 1302 人と大台に乗った。

（講演会） 八一祭記念講演会はにいがた文化の記憶館との共催で実施、当館は八一の短歌を 4 首で「斑鳩の四季」と、5 首で「法隆寺讃歌」を作曲してもらい、作曲者らの演奏に合わせ、記憶館推薦の 3 代目藤蔭静樹さんの舞を披露した。同時に唐招提寺の石田太一執事の講演会を催し、350 人の観客を集めた。このほか特別展記念講演会 2 回で 175 人が参加した。春の文芸講演会（馬場あき子氏）183 人。以上外部講師で 4 回聴講者総数 708 人。館長講演は市内で 5 回 285 人、奈良・東京・大阪など県外で 5 回 1172 人が聴講。学芸員の出前講座などは 15 回 1612 人が聴講。写真コンテスト講評会には 110 人。館総体として 30 回 3690 人の聴講者があった。

（イベント） 第７回写真コンテストは応募作品１１７点（前年比２点増）。入賞は特別賞が加わり 7 作品となった。表彰式・講評会・祝賀会は従来通り開催した。引き続き共催５、協賛２、協力５の１２団体から金品の支援を受けた。入賞入選作品の巡回展は奈良市、斑鳩町、東京早稲田、京都、愛知春日井市、胎内市など６か所で開催した。

（出版） ボランティアの書簡整理の成果として、八一往復書簡集「雁魚来往（内容は丹呉父子、山田正平、中田瑞穂からの来信が主）」第２集を刊行した。

（作品購入） 基金を崩し３０万円で、八一書き入れ湯呑６客を市内美術商から購入した。

２、事業の内容

（ア）展覧会事業　常設展（経費 2,110,291 円）=前年度 2,454,094 円比 14.0%減
特別展（経費 3,174,061 円）=前年度 3,854,000 円比 17.6%減

	24 年度 入館者数	24 年度 開催日数	25 年度 入館者数	25 年度 開催日数	25 年度 入館累計
４月	538	26	485	23	485
５月	688	27	886	27	1371
６月	945	23	590	26	1961
７月	551	26	406	23	2367
８月	547	27	461	27	2828
９月	479（291）	18	551	25	3379
１０月	0（4639）	26	499	23	3878
１１月	0（6043）	21	722	26	4600
１２月	80	5	140	7	4740
１月	248	24	585	24	5325
２月	222	24	290	24	5615
３月	274	20	337	20	5952
合　計	4572 （15545）	267	5952	275	

（）内は「若冲・応挙展」入場者数

25 年度観覧料収入=特別展 307,820 円　常設展 1,460,260 円（前年度 1,609,780 円）

（イ）展示事業＝記念館自主企画

【特別展】

○第３弾「街の中の會津八一」－東日本編－
会　　場：新潟市會津八一記念館
主　　催：新潟日報社、BSN 新潟放送、新潟市、公益財団法人會津八一記念館
会　　期：平成 25 年 10 月 5 日~12 月 1 日　開催日数　５０日間
入館者数：１，２６６人（前年度：承天閣美術館と會津八一記念館交換展「若冲、応挙の至宝」10,973 人）

平成 18 年、21 年と２回新潟県内にある商店や寺社、公共施設から會津八一の書を集めた展覧会「街の中の會津八一」を開催し好評を博した。展覧会では、県外東日本編として東京の商店や寺社、長野の温泉旅館、山形の博物館が所蔵する八一の書作品など７１点を展示した。とくに戦前から戦後にかけて親交を深めた新宿中村屋との関わりに焦点をあて、「那可無楽也」（なかむらや）などの額や、茶器などに八一の書が残されている作品を陳列。さらに東京の古美術商との繋がりから購入した中国美術品も紹介し、街に息づく八一の姿を改めて顕彰した。

さまざまな企業や商店へ贈った八一の書作品であり、初めて見る作品が多いため、来場者から感動したなどと好意的な感想を得られた。だが、新潟市民にはなじみの薄い店名などが多く、企画自体に限界があったと思われる。そのうえ新聞、テレビはじめ、ポスターでの広報展開もあまりうまくいかず、ＰＲ度が前年度より下回る形となった。展覧会の内容を興味深く持たせるための関連イベントに工夫を凝らす必要もあった。

【企画展】

①名曲『春の海』の作曲家・宮城道雄生誕 120 年記念　－藝に游ぶ－「會津八一と宮城道雄」
会期：平成 25 年 4 月 5 日~6 月 30 日　開催日数 76 日間
入館者数：１，９６１人（前年度「會津八一と入江泰吉」2,133 人）

盲目の箏曲家宮城道雄（1894－1956）が生誕 120 年を迎え、交流のあった八一と宮城の二人展を開催した。宮城の直弟子である會津蘭（八一の養女）の仲介により、八一と宮城は親交を重ねた。書道と邦楽との伝統を重んじながら、つねに独創性を追い求めていた二人。展覧会では、旧宮城会館が落成した記念に、宮城のもとめに応じた八一書「依仁游藝」は約 3 メートルもの横に長い額作品など、これら東京・宮城道雄記念館所蔵の八一作品や宮城の遺品、蘭にまつわる資料など６３点を展示した。また期間中、宮城会主催による講演と演奏会が新潟市音楽文化会館で開催した。初めての来館者が 6 割で、宮城会や音楽関係者などが多く見受けられ、八一に関心のない方々に知っていただくよい機会となった。

②「會津八一の旅と出会い　陶芸家齋藤三郎生誕百年」
会期：平成 25 年７月５日~9 月２９日　開催日数　75 日間
入館者数：１，４１８人（前年度「きい子　その愛」1,615 人）

會津八一が旅先で残した短歌や書作品を、写真家小林新一の写真を交えながら紹介した展覧会。また、陶芸家齋藤三郎（1913～1981）の生誕百年を記念して、八一との交流資料と作品を展示。新潟県栃尾（現長岡市）出身の齋藤は陶齋と号し、戦後は高田市（現上越市）で作陶を続けた。その活動の幅は広く、高田の文化人の中心的人物として詩人堀口大学、醗酵学者坂口謹一郎、板画家棟方志功らと交流している。八一は昭和 26 年（1951）に高田市の齋藤三郎窯を訪問し、以後親交を深めている。八一と齋藤の合作作品などを紹介したが、昭和 20 年代の新潟の文化状況を再認識してもらう展覧会ともなった。この展示が刺激となり、年末に上越で齋藤三郎展が開催された。アンケートを見ると、初来館（68%）や上越地方（9%）の鑑賞者の増加、展示内容の満足度も高かった。しかし、昨年度のような感情に訴えるテーマ設定の不足、新聞での連載、講演などがなかったこともあり入館者は減少した。

③「會津八一と酒の文化」展
同時開催第７回秋艸道人賞「會津八一の歌を映す」写真コンテスト入賞入選作品展
会期：平成 25 年 12 月 21 日~平成 26 年 3 月 23 日　開催日数 74 日間
入館者数：１，３０７人（前年度「會津八一と心の友展」824 人）

會津八一のお酒に関する数々の逸話や短歌、お酒にまつわる漢詩作品、酒造会社に残る書作品を中心に紹介した

展覧会。越後が誇るお酒の文化を八一の文学、芸術の分野から光をあてた。また、特集展示として日本における脳神経外科学の権威で、新潟大学に日本初の脳神経外科を設立した中田瑞穂生誕１２０年を記念した展示や、「會津一の歌を映す　第七回　秋艸道人賞写真コンテスト」の入賞入選作品を展示した。お酒という一般市民にも理解しやすいテーマだったせいか入館者数は昨年度より大幅増、来館者の満足度も高かった。中田瑞穂の展示は西大畑・旭町界隈の博物館の連携事業であり、多少の効果があったといえよう。中田瑞穂に焦点に展覧会をしてほしいとの希望もいただいた。

（展示に対する評価）＝入館者アンケート結果（＋＝好評、　－＝不評）
回答者数４１３名　（回答率６．９％）

展覧会名	作品解説の評価		展示量の評価		全体的評価	
會津八一と宮城道雄	＋87%	－10%	＋82%	－17%	＋95%	普通 4%
旅との出会い	＋93%	－ 6%	＋86%	－12%	＋96%	普通 4%
街の中の會津八一	＋89%	－ 9%	＋89%	－ 8%	＋87%	普通 13%
會津八一と酒の文化	＋93%	－ 6%	＋89%	－ 8%	＋96%	普通 3%
合計	＋91%	－ 7%	＋86%	－12%	＋94%	普通 6%

（接客に対する評価）良い 66%　普通 32%　悪い or 無回答 2%

★総括＝①全体的、接客に対する評価が昨年度よりも高い。（24 年度全体 91%、接客 63%）②作品解説、展示量の評価が昨年度よりもやや高い。（24 年度解説 84%、展示量 71%）③アンケートの回答者数が昨年度（737 名）より半数近く減少、ただし回答率 6.9%（平成 24 年度 4.7%）。

（主な来館者）※当館理事、評議員は除く

4 月＝篆刻家松丸東魚の長男・松丸道雄東京大学名誉教授（3 日）亀倉静子氏（彫金家亀倉蒲舟の義娘）と娘（5 日）遠藤実実唱館館長遠藤由美子氏（12 日）箏曲家・武藤松圃氏（16 日）ブルボン社長吉田康氏（24 日）奈良斑鳩町長小城利重氏（26 日）江戸千家宗家川上宗雪氏、中野宗順氏（28 日）大阪府国宝を訪ねる会、石川県百万石会（30 日）

5 月＝伊藤勝也北方文化博物館副館長（2 日）、町歩きの会（9 日）、胎内市グループ（14 日）、東京学館生徒（17 日）、秋葉区版画サークル（22 日）、三条良寛会団体（23 日）宮城道雄記念館牧瀬しずえ事務局長、見附市のグループ（28 日）兵庫県・自然に親しむ会団体（31 日）

6 月＝早稲田大名誉教授大橋一章氏（7 日）福岡南ライオンズクラブ（8 日）創美会、あらくさ短歌会（14 日）福光美術館友の会団体（18 日）越路町高齢者書道クラブ団体（20 日）宮城道雄記念館牧瀬理事長ら 7 氏（22 日）胎内市協議会団体（25 日）長生館荒木社長と営業部長（29 日）

7 月＝石坂洋次郎文学記念館職員、書家佐藤光堂氏（6 日）愛知県芸大名誉教授川上実氏（13 日）齋藤尚明氏（20 日）土屋文明文学館館長篠木れい子氏（21 日）

8 月＝新潟県青少年文化財講座聴講生（7 日）唐招提寺・石田太一師、早稲田大学浅井京子准教授、新発田市職員（市島邸関係者 9 日）藤蔭静樹一家、新津美術館・横山館長（10 日）書家今井昭友氏（15 日）熊本大学神野雄二教授(18 日）坂口謹一郎の娘ら一行、専念寺住職夫妻、上越市菓子業者・宮越光昭氏（20 日）上越市文化振興課・山田課長、太田係長（27 日）

9 月＝文信堂・西村会長、早稲田大学図書館藤原氏、濱谷浩氏の甥・真野氏（1 日）看護大学渡辺隆学長、後藤上教大教授、越後文学会（7 日）斉藤邸・松山館長（10 日）サントリー新潟支店大井信吾支店長、角田書道グループ団体（15 日）新潟日報新人研修（19 日）新発田古文書解読研修会（25 日）話し方合同行事団体、茨城県・やまほうし団体、旭町資料館橋本先生（29 日）

10 月＝中村屋島田課長・河野課長・広澤課長、龍泉堂繭山綾子氏、早稲田大會津博物館尾崎事務長、東京藝術大学美術館准教授古田亮氏（5 日）法政大学ゼミ OB（6 日）おもしろ関屋学町歩きの会（12 日）佐渡市内の社員旅行団体（19 日）蟹仙洞長谷川館長妹（22 日）和島村良寛会（30 日）

・11 月＝コバリキ小林建社長（1 日）中部日本書道会半田支部、敦井美術館渡辺事務局長（2 日）台湾研究者李銘宗氏（4 日）千曲館女将・姉妹・友人（8 日）繭山龍泉堂専務取締役川島公之氏、繭山龍泉堂創設者の孫繭山和子氏、平安堂・中村正平氏（9 日）樋木酒造会長（10 日）国際ソロプチ奈良まほろば一行（中宮寺ご門跡、薬師寺長老夫人ら　11 日）吉池夫夫妻とご子息、大円寺福田住職（12 日）東京電機大学理工学部教授　石塚正英氏（17 日）若松保広仏像美術写真家（24 日）風景館女将と従業員（27 日）文科省・中野遵教科書調査官、中教研国語科教師研修（28 日）女優・五大路子氏（30 日）

・12 月＝平賀源内記念館近藤敬司氏 22 日）郷土史研究家小嶋正芳氏（23 日）

・26 年 1 月＝新潟市・山口英樹副市長と秘書（9 日）今湊良敬中央幼稚園園長（13 日）上田茂新潟眼鏡院社長（26 日）良寛記念館職員（29 日）

・2 月＝鶴岡市立藤沢周平記念館職員（4 日）新潟市教育委員会小学学習センター所長・三保恵美子氏と中央公民館学習支援係・武藤正明氏（6 日）

・3 月＝高橋酒造元社長夫人高橋圭子氏（5 日）蒲原宏氏（13 日）とやの中央病院、関根理医師（15 日）早稲田大會津博物館助手金氏、新潟産業大学教授片岡直樹氏、書壇院柳澤氏（22 日）

（ウ）講演会事業

①八一祭記念講演会（有料　500 円）にいがた文化の記憶館と共催

【講　　演】テーマ「鑑真和上のこころと會津八一」
講　師　石田太一師（唐招提寺寺執事）

【舞踊と音楽】「斑鳩の四季」（舞踊：藤蔭静樹　箏：武藤宏司　笛：藤舎推峰）
「法隆寺讃歌」（箏：武藤宏司　笛：藤舎推峰）
「北国の春」　（舞踊：藤蔭静樹）
「雪椿」　（舞踊：藤蔭静樹）

日　時　平成２５年８月９日（金）　午後１時３０分～５時
会　場　りゅーとぴあ　能楽堂（新潟市民芸術文化会館内）
入場者　３５０人

②特別展関連第１回　講演会（有料 500 円）
テーマ「新宿中村屋サロンと會津八一」
講　師　古田亮氏（東京藝術大学大学美術館准教授）
日　時　10 月 5 日（土）午後 2 時～３時３０分
会　場　クロスパルにいがた　映像ホール
入場者　１０１人

③特別展関連第２回　講演会（有料 500 円）
テーマ「会津八一と鑑賞陶器の時代」
講　師　川島公之氏（繭山龍泉堂専務取締役）
日　時　11 月 9 日（土）午後２時～３時３０分
会　場　クロスパルにいがた　映像ホール
入場者　７４人

④第１回文芸講演会
テーマ　「會津八一の歌」
講　師　馬場あき子氏（歌人）
日　時　5 月 24 日（金）午後２時～３時３０分
会　場　りゅーとぴあ　能楽堂（新潟市民芸術文化会館内）
入場者　１８３人

（エ）普及活動事業

①館長講座＝参加者負担　講師：神林恒道館長

会場：クロスパルにいがた　映像ホール

・第１回　５月 23 日（木）「焼き物の錬金術」　53 人

・第２回　６月 28 日（金）「やきもの一嘘から出た真実」　64 人

・第３回　７月 19 日（金）「茶陶の美学」　48 人

②作品解説会

○新潟市會津八一記念館企画展＝講師：喜嶋、湯浅学芸員

会期中第２、４日曜日　午前 11 時～12 時

③出前講座＝その他の団体主催による講演

・　４月 18 日（木）講演「會津八一と奈良」
主催と会場：新潟市立小新中学校　講師：喜嶋学芸員　114 人

・　６月 14 日（金）　講演「會津八一」
主催：胎内市築地公民館四つ葉大学　会場：胎内市築地公民館　講師：湯浅学芸員　61 人

・　６月 23 日（日）演奏と講演「會津八一の伝統と革新について」
主催：宮城会　会場：新潟市音楽文化会館　講師：喜嶋学芸員　530 人

・　７月 10 日（水）講演「會津八一を支えた會津きい子」
主催：亀田福寿大学　会場：亀田市民会館　講師：喜嶋学芸員　77 人

・　７月 10 日（水）講演「名誉市民　會津八一の魅力」
主催：深雪２０１２　会場：坂井輪地区公民館　講師：湯浅学芸員　20 人

・　７月 11 日（木）　講演「會津八一と新潟」
主催：平成会　会場：新潟市万代市民会館　講師：喜嶋学芸員　130 人

・　７月 26 日（金）講演「政治家・文筆家　市島春城」
主催と会場：鳥屋野地区公民館　講師：湯浅学芸員　80 人

・　８月 23 日（金）講演「にいがたの文化」
主催：日本美術教育学会　会場：日報ホール　講師：神林館長　70 人

・　９月６日（金）　講演「にいがたの文化について」
主催：新聞協会同友会　会場：日報多目的ホール　講師：神林館長　50 人

・　９月 11 日（水）講演「會津八一について」
主催：會津八一記念事業実行委員会　会場：胎内市立中条小学校　講師：喜嶋学芸員　112 人

・　10 月 22 日（火）同行解説「八一足跡巡りバスツアー　八一ゆかりの地―南魚沼と良寛の故郷を訪ねて」
主催：秋艸会　講師：喜嶋学芸員　26 人

・　11 月４日（月）～7（木）同行解説「正倉院展と奈良・京都と旅」ツアー
主催：新潟日報旅行センター　講師：喜嶋学芸員　35 人

・　11 月６日（水）　講演「會津八一と絵手紙」

・　主催：一般財団法人日本絵手紙協会
会場：東京・AP 東京八重洲通りホールA・B　講師：神林館長　138 人

・ 11 月 14 日（木）講演「新潟市名誉市民　會津八一」
主催：NPO 法人にいがた水土里支援センター会　会場：東映ホテル
講師：湯浅学芸員　70 人

・ 11 月 15 日（金）講演「會津八一と奈良」
主催：法華寺協賛会　会場：奈良県経済倶楽部　講師：神林館長　100 人

・ 12 月 3 日（火）　講演「會津八一と絵手紙」
主催：一般財団法人日本絵手紙協会
会場：名古屋国際センター第 1 会議室　講師：神林館長　55 人

2014 年

・ 1 月 19 日（日）講演「會津八一と奈良」
主催：奈良県　会場：日本教育会館一ツ橋ホール　講師：神林館長　800 人

・ 1 月 21 日（火）講演「會津八一と奈良」
主催、会場：新潟市立寄居中学校　講師：喜嶋学芸員　110 人

・ 1 月 22 日（水）講演「會津八一と絵手紙」
主催：一般財団法人日本絵手紙協会
会場：大阪絵手紙ホール　講師：神林館長　79 人

・ 3 月 5,12,19 日（水）講演「はじめての會津八一　はじめての奈良」(3 回シリーズ)
主催と会場：砂丘館　講師：湯浅学芸員　45 人

・ 3 月 12 日（水）　講演「會津八一の魅力」
主催、会場：新潟市立小新中学校　講師：湯浅学芸員　110 人

・ 3 月 21 日（金）　講演「會津八一の魅力」
主催、会場：関屋地区公民館　講師：喜嶋学芸員　92 人

（所蔵品貸出展覧会）

・「テーマ展示」
6 月 4 日（火）～　所蔵品 7 点貸出　にいがた文化の記憶館

・第 6 回秋艸道人賞写真コンテスト入賞入選作品　巡回展
4 月 1 日（月）～ 4 月 10 日（水）　早稲田大学會津八一記念博物館
5 月 21 日（火）～6 月 2 日（日）　奈良県立図書情報館
6 月 8 日（土）～9 月 29 日（日）　相国寺承天閣美術館
11 月 8 日（金）～11 月 10 日（日）　胎内市産業文化会館
11 月 24 日（日）～11 月 30 日（土）　いかるがホール

（出版）

八一往復書簡集「雁魚来往」第 2 集－丹呉康平・協平、山田正平、中田瑞穂と會津八一との往来書簡－
編集：「雁魚来往」研究会（渡辺恒美・近藤悠子・角田勝久の 3 氏）
内容：丹呉家への 73 通と来信 42 通、篆刻家山田正平への 33 通と来信 24 通、脳外科医中田瑞穂への 32 通と来信 14 通をそれぞれ時系列で組み合わせた。
A4 版　120 ページ　2000 円（税込）　400 部発行

（オ）学習講座（参加者負担）
・會津八一の歌を読む会　講師：若月忠信氏（文芸評論家）
砂丘館　毎月第１土曜日　受講者９人

（カ）イベント
①　「會津八一の歌を映す」第７　回秋艸道人賞写真コンテスト（総事業費 2,346,120 円）
・公募期間　4 月から 11 月 16 日（作品搬入 11 月 6 日～16 日）
・応募点数　117 点
・応募人数　76 人（県内 41 人　県外 35 人）
・審査委員　淺井愼平（委員長）、塚原史、若松保広、和泉久子、神林恒道の 5 氏
・審査会　11 月 24 日　14 時～17 時　ホテルオークラ
・審査結果　秋艸道人賞に新潟市の坂井征栄一さん
奨励賞は６人（県内３人、奈良県１人、大阪府１人、愛知県１人）
入選は 21 人（県内 14、奈良４、埼玉 1、大阪１、島根１）
・記者発表　11 月 25 日　午前 10 時 30 分～
新潟市政記者クラブ　淺井委員長、神林館長、武藤事務長
・授賞式・作品講評会＝審査委員と受賞者の対話方式（入場無料）
26 年 2 月 8 日（土）午後 2 時～4 時　クロスパルにいがた　参加人数 110 人
・祝賀会（参加者負担）
25 年 2 月 8 日（土）午後 5 時～6 時 30 分　ホテルオークラ　参加人数 40 人

②奈良の歴史と地域振興首都圏フォーラム
「會津八一が愛した奈良の社寺、仏」
主催：奈良県　後援：早稲田大学　新潟市會津八一記念館　協力：飛鳥園
会場：日本教育会館　一ツ橋ホール
講演とパネリスト：神林館長出演　参加人数 800 人

（キ）鑑定会　（経費 237,395 円）

春の部	5 月 11 日（日）	総点数１６点	認定数　７点	収入 370,000 円
秋の部	10 月 27 日（日）	総点数２３点	認定数１８点	収入 740,000 円

（ク）新収蔵品
○寄贈　會津八一書簡　こしの千涯宛　ほか　５点
會津八一書「秋艸道人詠草」　１点
亀倉蒲舟彫金　２点　計８点

○購入　會津八一書・齋藤三郎窯　書入れ汲出茶碗　６客
會津八一書　木額「一瓶荘」　１点　３００，０００円

（ケ）販売活動
・「学規」割引セール　実施期間 25 年度（25 年 4-5 月、26 年 2-3 月）
額装 23 点　未表装 6 点　色紙 25 点　販売合計 54 点

（コ）広報活動

①新聞　（記事掲載は県立図書館データベースより會津八一関連記事を検索）
〔新潟日報〕　記事１０８回　広告１０８回（複製学規２４回　展覧会８４回）
〔朝日新聞〕　記事７回
〔毎日新聞〕　記事３回

〔読売新聞〕　　記事３回
〔日本経済新聞〕　記事７回
〔産経新聞〕　　記事１回
〔東京新聞〕　　記事１回
〔神戸新聞〕　　記事１回
〔信濃毎日新聞〕　記事１回
〔書道美術新聞〕　記事１回

②テレビ、ラジオ
〔ＢＳＮ新潟放送〕＝計３０９本
・ラジオＰＲ＝計２１７本（40秒　全県が１７３、下越が４４）
・ニュース=２回
・テレビＰＲ＝計９０本

〔UX２１〕
・ニュース　　１本
〔ＮＨＫ〕
・新潟ニュースとラジオ　ＰＲ
〔ＮＨＫ大阪〕＝記念館・取材協力及び写真提供
・ニューステラス関西「出征直前の旅に込められた思い」
学徒出陣の出征直前に奈良を訪れた早稲田大学生たちについて、八一の弟子・故金田弘氏や飛鳥園会長の小川光三氏らを取材。
〔フジテレビ〕
・ドラマ「浅見光彦シリーズ４７～平城山を越えた女」（原作：内田康夫）
八一の歌２首と日吉館の宿帳、八一揮毫の日吉館看板、日吉館前の八一写真を放映
〔テレビ東京〕
・「開運！なんでも鑑定団」＝記念館、八一の写真を提供
八一書画軸「はつなつの」を女優樫山文枝が出品

③市報にいがた
展覧会、講演募集＝８回

（サ）学校団体見学

・4月24日　新潟市立曽野木中学校　７人
25日　新潟市立小新中学校　１１４人
・5月17日　東京学館新潟高校　３８人
・5月21日　新潟市立上山中学校　５人
・5月25日　新潟医療福祉大学　２８２人
・6月4日　新潟市立松浜小学校　２６人
・7月23日　埼玉県立大宮光陵高校　７８人
・9月15日　岐阜女子大学　４４人
・10月31日　高田北城高校　６人
・11月6日　新潟市立下山中学校　４人
・11月28日　新潟市中学校研究協議会　国語研修部　５人
・26年
1月18日　新潟医療福祉大学　１９５人
1月28日　新潟市立寄居中学校　１０９人